

カルメル

霊性センターニュース



2025年6月

420号

目次

目次	1
心の泉	2
通信深読お申込みのご案内	2 3
カルメル会の企画案内	2 4
東京	2 5
京都	2 7
名古屋	2 9
諸所の企画案内	3 0
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 4

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第九章 自分と自分のすべてを神に捧げ、すべての人のために祈る

6 私を苦しめる人々のために

また、特に私を傷つけ、悲しませ、侮辱し、損害やわずらいを与えた人々のために、私の祈りと償いのいけにえをあなたに献げます。さらに、私がいつか悲しませ、不安にし、故意か偶然か、言葉とおこないによってつますかせた人々のためにも献げます。私たちの罪とお互いの過失を、皆に等しくゆるしてくださるよう願います。主よ、私たちの心にある疑いと不快と怒りと不和とを、そして、愛徳を損ない、兄弟愛を衰えさせてしまう一切のことから遠ざけてください。主よ、あなたのあわれみを乞う者をあわれんでください。主よ、いつくしみを乞う私たちをあわれんでください。恵みを必要としている私たちを助けてください。私たちがあなたの恵みにふさわしい者となり、永遠の生命へと歩むことができますように。アーメン。》

第十章 聖体拝領を平気で怠ってはならない

1 主

《情欲と悪い傾きを直し、悪魔のいざないと罫に対していっそう強く警戒しようとするなら、しばしば神の恵みとあわれみ、いつくしみと清さの泉に近づかなければならない。敵は聖体にどれほどの効果があるかを知っているのだから、あらゆる方法と機会をねらってさまたげ、敬虔な信徒をできるだけ聖体から遠ざけさせるようにしている。》

2 悪魔のいざない

そこで、ある人は聖体拝領の準備をしようとする時、悪魔のよこしまな誘いに悩まされることがあるとヨブの書(1・6、2・1 参照)に記されているように、悪魔はいつもの悪意をもって、神の子らを動揺させ、恐れさせ、ためらわせる。聖体拝領をまったくやめさせるか、少なくとも冷淡にならせようとして人の心に侵入し、彼らから神への愛を奪い、信仰を失わせる。

しかし、その悪だくみやみだらな暗示が、汚らわしく恐ろしくても、それを重視せず、むしろその考えを相手に投げ返さなければならぬ。浅ましいその霊は、私たちの軽蔑と嘲弄ちょうろうを受けるべきものである。私たちが攻撃し、動揺させようとしても、そのために聖体拝領をやめてはならない。

3 小心を取り除く

ある時にはさまたげとなるのが、熱心さへの行きすぎた欲求、あるいはゆるしの秘跡に対するある種の不安である。このような時は、賢明な人々の意見に従い、神の恵みをさまたげ、靈魂こゝろの信心を壊してしまう不安と小心とを取り除かなければならない。気がかりなことや霊的な疲れがあっても、聖体拝領をやめることなく、できるだけ早くゆるしの秘跡を受け、「他人から受けた不快な思いを心からゆるし」(マタイ 6・14 - 15)、「もしあなたが誰かほかの人に過失を犯したなら、謙遜な心をもって、ゆるしを願いなさい」(マタイ 5・23 - 24)。そうすれば神は、喜んでゆるしてくださる。



復活されたキリストの最初のあいさつ、

「平和があなたたちと共にありますように」を
わたくしもまた、皆さんの家庭、あらゆる場所の全ての人々、
全ての地に届くことを願います。

皆さんに平和がありますように！

これは復活されたキリストの平和です。
それは武装しない平和、静かで、謙遜な、忍耐強い平和です。
それは神から来るものです。

神はわたしたち皆を 無条件に愛されます。 ～教皇レオ 14 世～

テレーズ列聖 100 周年 テレーズ信頼の道を行く

神の慈しみへの 果てしない望みは わたしのたからです。

～テレーズ～

わたしの使命が始まろうとしています。

わたしが愛しているように、人びとに神さまを愛してもらい、
わたしの小さい道の人びとに示す使命が。 ～テレーズ～

わたしの手には何も残っていません。

持っているもの全部、そしてわたしが得る者も全部、
教会と人々のためです。

八十歳まで生きたとしても、

わたしはいつまでも同じように貧しいことでしょう。 ～テレーズ～

神への歩みに、わたしたちのみじめさは邪魔になりません。

わたしたちのうちに刻まれた傷さえ
神の光のうちに光の源となりうるのです

～福者マリ=ユージェヌ神父 ocd～



ローマへの巡礼中、教皇
レオ13世に謁見し、カ
ルメル入会の特別許可
を願っているテレーズ

希望の巡礼者も、ひとたび歩み始めた神への道程では、登れば登るほど 自分の貧しさ、
みじめさ、弱さを感じるようになるでしょう。

「もう断念した方がよいのではないか。しよせん、わたしには無理だ…」

そうした思いに駆られた時、自分のみじめさを味わった体験こそ貴重なのだと
思い出せますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートル・ダム・ヴィ

フランシスコ教皇の言葉⑭

芸術とは、聖霊の風をとらえ、
わたしたちを前に進ませる帆のようなものです。

海が風ぎとなると、ヨットや帆船は前に進みません。港にいて、風がふき始めるのを待ちます。人間の力ではなく、人間を超える自然の力に頼るところは、信仰生活に似ているのではないのでしょうか。

教皇様は、「芸術は、聖霊の風をとらえ」と言っておられます。聖霊はギリシア語で Pneuma・ハギオン。ハギオンは「聖なる」という形容詞で、Pneuma は「風」とか「息」とか訳されます。インスピレーションのもともとの意味はスピリト（聖霊）に息吹かれることですから、芸術家が、神の Pneuma に満たされな
いかぎり、その作品、演奏や演技は、「わたしたちを前に進ませる帆のようなもの」とはならないでしょう。

要するに、人の心を打つ芸術家の作品、演奏や演技は、単に彼あるいは彼女のわざではなく、神御自身のわざとなっているのです。私たちの心を前に進ませ、高みへと導くような芸術が、混沌としたこの現代にも生まれてきますように。

（P. 九里）

P.S. 「フランシスコ教皇の言葉」（①～⑬）は、カルメル会の HP の「霊性センターニュース」に掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（202）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

人間的なことの深みと高み ” 私の知らぬ何かしら・・・” (2)

これが、私の知っている十字架のヨハネです。他の風変りな陰鬱なヨハネは、偽物です。私が知り、感嘆する十字架のヨハネは、自然を愛し、だれよりも自然をたたえ、満天の夜空をながめながら、またこんこんと湧きあふれ、流れゆく水を見たり、その音を聞いたりしながら、祈りをするのを好んだ人です。

最後の病気の間も、もっとも洗練された人間性と聖性の模範を示し続けました。彼の病人係や医師に対する絶えざる感謝、優しさ、温和さ、善良さ、従順、限らない忍耐、神や人々へのゆるぎない信仰等々。

けれども、私は、彼の靈魂の高貴さ、すなわち人間的かつ聖なる性質に関するもっとも偉大な教訓の一つを強調したいと思います。それは次のようなものです。ディエゴ・エヴァンヘリスタによってヨハネに対して馬鹿げた不条理な迫害がなされた時、この迫害を嘆く人々のたくさんの手紙が十字架のヨハネのもとに届きました。それらは、だれが迫害をしているのか、だれがそれを許可しているのか、あるいはだれがそれを阻止しようとしなかったのかなどについて論じていました。ヨハネ修士は、これらの手紙に対し、まったく平静な態度で少しずつ答えていました。ある手紙では、「彼は虫けらなので、だれも彼を侮辱することはなく、創造主が彼のうちに準備したものを、愛ゆえに抱きしめるべきときであり、ただそれだけのことです」と言っています。他の手紙では、彼の靈的息子に、「彼に反対して行われ、言われることについて悲しまないでください。彼は何も悲しんでいないのですから」と答えています。

（続く）

P. 九里訳

主の昇天（C 年）

（ルカ 24：46－53）

主の昇天は、イエス・キリストが死と復活の後に「栄光の内に御父の右の座につき」、私たちの救いのために取りなして下さっている神秘を表現していますが、それは、「時間と空間を超えた」出来事でした。時間と空間を超えた出来事は人間の言葉で表現しきれません。そのため福音記者によって昇天の記述は異なっています。ルカ福音書では死、復活、昇天、聖霊降臨が別々の時に起こった出来事として表現され、それぞれの違った意味を強調しています。一方ヨハネ福音書では、死、復活、昇天、聖霊の注ぎをすべて十字架の1つの出来後に集約しています。十字架の内に、死から復活への過越、御父の右の座に上げられ、栄光に入られる高举、昇天、また、聖霊の注ぎ全てを表現し、十字架の内にすべてがあることを強調しています。

十字架は、神であるキリストが人となり、罪の内に苦しんでいる人と連帯し、さらにその罪を負うために、最も低きに下られたことを表すと同時に、罪のゆるしをもたらすために、罪を抱えた人を背負い、取り去り、御父の栄光の場まで運んで下さることの両方を含んでいます。

主の昇天の集会祈願に主の昇天の神秘がよく表されています。

「全能の神よ、あなたは御ひとり子イエスを、苦しみと死を通して栄光に高め、新しい天と地を開いてくださいました。主の昇天に、わたしたちの未来の姿が示されています。キリストに結ばれるわたしたちをあなたのもとに導き、ともに永遠のいのちに入らせてください。」

キリストが十字架によって私たちを運び、御父のもとへと導き、新しい天と地を開いてくださいます。主の昇天の神秘は私たちの未来の姿が示されていますが、それはまさに、主が私たちを運んで下さるからです。

（志村）

聖霊降臨の主日（C）

（ヨハネ20：19－23）

そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい」

教会は、ペンテコステの祭日（聖霊の祭日）を祝います。栄光のうちに上げられたイエスは、教会とともにあるように聖霊を送り、すべての國を神の民とします。聖霊は使徒たちがあらゆる言語でよい知らせを告げることができるようにします。使徒たちはこの使命を真剣に受けとり、全ての人に福音を告げ知らせるために出発します。

イエスは父から受けた使命を弟子たちにまかせます。神がイエスを送り出したとき、イエスは弟子たちも送ります。そのため、彼らは罪から救うという働きを続けることになります。イエスの名においてこの埋め合わせをする仕事を完成するには、聖霊に満たされなければなりません。それで、イエスは、「彼らに聖霊を吹きかけ、罪を赦す力を与えたのです。」これは教会へのイエスからの特別な贈りものです。これは、また私たちひとり一人への特別の思い出でもあります。私たちがキリスト者であることの印、イエスとの個人的な関係は、寛大な心で特徴づけられています。この心の実りは；赦すこと、平和、喜び、一致などです。他者の中にキリストを見るためには、私たちは聖霊に満たされていなければなりません。

一致の源である聖霊は、教会の全てのメンバーに様々な能力を与え「神秘体」の繁栄、幸福のために働くように促します。私たちは皆、主に奉仕するために霊から指名を受けました。一致と共同体は、手を取りあってっっていっしょに歩みます。自分の生活や他者の生活の中で聖霊の働きを経験していますか？ ペンテコステは、教会の誕生日でもあります。神の霊が私たちの中にとどまり、私たちを新たにし、仕えられるためではなく仕えるために来られたイエス・キリストに倣って善を行えるように、自分の生活の中で毎日のできごとであるべきです。

ペンテコステの祭日にあたり、聖霊というこの特別な贈りものを主に感謝しましょう、そして神の霊が私たち中に働いていることを世に現していきましょう。

（Sr. Paulina）

三位一体の主日

(ヨハネ16:12-15)

今日は三位一体の主日です。私たちを愛し、救い主を遣わして下さった神はどのようなお方でいらっしゃるのでしょうか。私たちの神は、父と子と聖霊の三位一体の神です。私たちは先週の日曜日、復活節の最後に偉大な御業で恵みである聖霊降臨を祝いました。そしてその翌日に教会の暦は年間に戻って、真っ先にお祝いするのが、父と子と聖霊の「三位一体」です。それはとても相応しいお祝いなのではないでしょうか。

今日の福音書で語られる場面ですが、最後の晩さんより後の出来事、イエスがその後キドロンの谷の向こうの園で、ユダの裏切りによって、祭司長やファリサイ派の人々の遣わした下役たちや兵士たちに捕らえられる前の出来事になります。

イエスは弟子たちに対して「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。」と言われます。このことばは、弟子たちに対し、世を去る前、十字架上で亡くなられる前の「惜別」のことばですが、弟子たちには理解できないと話し、その様な中で、真理の霊、聖霊について、また父が持っておられるものはすべて、わたしのものである・・・と、父なる神との関わりについても語られました。

父と子と聖霊の三位一体の神。時が満ちて、父なる神は、最愛の御子、「みことば」をマリアの胎に宿らせて、この世に遣わして下さいました。そしてイエス・キリストが、世を去る前、真理の霊、愛の霊、聖霊がこの世に来ること、遣わされることをイエス・キリストを通して語られ、神の愛、神の神秘を私たちに顕して下さいました。

三位一体の神は、弟子たちに真理を悟らせるため彼らを導かれました。神の御独り子イエスは、御父から命じられたままに弟子たちに語られ、そして聖霊はイエスの言葉を受け、弟子たちに告げて理解できるよう、悟ることができるように、助けて下さいます。

福音書のイエスの言葉は、弟子たちに語られた言葉ですが、時代を超え、時を超えて、今日私たちに語られています。そしてイエス・聖霊は、私たちが父なる神からのことを、神からの真理を私たちが理解し、悟ることができる様に導き、助けて下さいます。

父と子と聖霊の三位一体の愛の中、交わりの中で、神の子として生きる私たちです。神の働きかけに心を開き、これからも三位一体とともに歩むことができますように。

(Fr. 古川利雅)

キリストの聖体 (C)

(ルカ 9 : 11 b - 17)

「キリストの聖体」の祭日である今日、教会は「キリストの御体と御血」を祝います。キリストは、ご自分の体と血をまことの食べ物と飲み物として私たちに与え、私たちはそれによって霊的にも肉体的にも養われます。聖体は私たちのいのちの源と頂点であると同時に、キリスト教の信仰の核心です。聖体において、キリストは私たちをご自分に引き寄せてくださいます。教会で祝うミサ聖祭の度に、聖なる祭壇上でのイエスな偉大な犠牲に私たちは感謝します。

今日の福音では、増えるパンの奇跡が描かれています。この箇所は、キリストの聖体と多くの共通点があるため、本日の朗読としてふさわしいものです。例えば、イエスはパンを取り、神を賛美し、それを裂いて弟子たちに与えました。聖体のパンもまた、私たちのために裂かれたイエスの御体と、私たちの贖いのために十字架上で流されたイエスの御血を記念するものです。なんという無条件の愛！なんという完全な自己犠牲！なんと寛大な分かち合い！

キリストの聖体の祭日とすべてのミサ聖祭は、私たちを、より大きな愛と自己奉獻、そして特に貧しい人々や困窮している人々への惜しみない分かち合いの精神へとかき立てるものでなくてはなりません。神は祝福の内に、私たちが持つわずかな資源、才能、賜物を増やしてくださるでしょう。自分の賜物や才能を分かち合うには、犠牲と自己奉獻が必要です。すべてのミサ聖祭は、他者のために犠牲を捧げる私たちの義務を思い出させてくれます。聖体を拝領する度に、イエスは「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と私たちに語ります。このイエスの命令を実行する時、私たちは言葉と行いを通じて真の弟子となるのです。

ミサ聖祭は、イエスが結ばれた新しい契約であり、神と人とを結びつけるイエスの愛の契約です。洗礼によって私たちはこの契約のパートナーとなり、ミサ聖祭を祝うたびにこの契約は更新されるのです。

(Sr. Paulina)

聖ペトロ聖パウロ使徒（C 年）

（マタイ 16：13－19）

初代教会は当初 3 つのグループがあったと言われています。主の兄弟ヤコブを中心としたエルサレム教団、異邦人改宗者とユダヤ教からの改宗者からなるアンティオキア共同体、そして小アジアで活動したであろうとされるヨハネ共同体の 3 つです。エルサレム教団は第 1 次ユダヤ戦争の最後、紀元 70 年のエルサレム神殿崩壊と共に消失し、位階制を持たないヨハネ共同体も詳細は不明ですが最終的にアンティオキアを中心とする教会に取り込まれていったと言われています。アンティオキアを中心とする教会共同体は、パウロ的な神学に強い影響を受け、今の教会に続いています。

聖霊降臨後の使徒たちの活動は、聖書ではほぼパウロが中心として書かれています。ペトロも信仰理解をめぐってパウロに諫められたこともありましたが、それ程にパウロの影響力は初代教会から今に至るまで強いのです。

しかし、教会の土台はパウロではなくペトロです。ペトロは主イエスを十字架を目前とする苦難の時 3 度否みましたが、それでもペトロはイエスと共に生活し、イエスの内に主、メシア・キリストを見て告白した人でした。ペトロは 3 度、主を否みましたが、十字架の後にも共同体から離れず、聖霊降臨後は力強く宣べ伝える者に変えられました。聖霊降臨後の聖書記事の中にはペトロはパウロ程影響を持っていないようにも見えますが、相変わらずのペトロの弱さ、謙遜さが垣間見えます。ペトロは強められたのちも、イエスを主と信じ、宣教しながらも、主を直接否んだ経験を持つ謙遜な人として映ります。

パウロも当初教会を迫害し、ステファノの殺害に賛成していた者でしたが、なんらかの強烈な体験の後、あるいはガラテヤ書から窺えることは、もしかしたら緩やかな回心体験だった可能性もありますが、いずれにしても回心を体験した人でした。そのパウロも教会に受け入れられる際には、ペトロとヤコブとヨハネという柱と目されていた人たちに会いに行き承認を得たのでした。

今日の祝日は、土台となるペトロの生き方と力強いパウロの生き方を見つめ、両者とも弱さを抱えながら謙遜でもありながら、伝わってくる雰囲気の違いを味わうことも大切でしょう。キリスト教霊性の各である謙遜とそこから出てくる生き方は多種多様であることが覗えます。

（志村）



2025年 夏号 No.397

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(2)》
聖年の『希望の巡礼者』と
イエスの聖テレジアの中の『希望』 松田浩一

カルメルの外のカルメル
—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(10) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道—祈りの道、イエスとともに
歩む道 伊従信子

旧約聖書から学ぶキリスト教靈性
—創世記2章3章① 志村 武

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ＝神のいのちへの道(6) 椿 権三

風に吹かれて再び(12)—老木に花の咲く
原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(14) 九里 彰

靈的研究会講義録(28)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」
「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から
—二人のテレジアの靈的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類
—巡礼、シノドス、ニカイア公会議、新回勅
の連続性

サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く 志村 武

信仰生活の再構築 和田 誠

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料 140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2025年4月21日

教皇フランシスコのご帰天に際し、 追悼の意と心からの感謝を捧げます



跣足カルメル修道会の全ファミリーの親愛なる兄弟姉妹、修道士、修道女、カルメル在世会、およびすべての関連メンバーの皆様へ、平和と希望がありますように！

私たちの聖なる父である教皇フランシスコのご帰天の報に接し、イエスの聖テレサと十字架のヨハネの子どもであり、教会の子どもである跣足カルメル修道会は全体で心をつにして、教皇フランシスコ在位12年間の生涯と教皇職への献身に対して、神に感謝を捧げます。

私たちは、教皇の命を聖母マリアの母性愛にゆだねます。聖母マリアが教皇を、すべての聖人たち、教皇の先人たちや愛する者たちとともに、天国の家へと導いてくださいますように祈ります。

そして、聖霊が、神のみ旨によって、現代と教会の必要に応えるために求められる教皇の、後継者を与えて下さるよう心より祈ります。そして従順と忠実の精神をもって教皇の後継者をお迎えします。

この時もいつも、私たちはイエスに従い、教会に忠実であるよう、民を導く羊飼いの教皇に対して、皆が心をひとつにしています。私たちは教皇フランシスコとの絆を大切にし、聖なる母であるイエスの聖テレサの精神に基づいて、これからは教皇フランシスコの後継者と繋がっていきます。

私はここで、2021年9月11日に開催された跣足カルメル修道会総会で頂いた、教皇のお言葉を二つ思い起こします。

「親愛なる兄弟たちよ、神との友情、友愛の生活、使命、これら三つの要素の調和は、魅力的な目標であり、現在と将来の選択を動機づけるものです。この調和を創造するお方——聖霊が、これからの道を歩むあなた方の足取りを照らし、導いてくださいますように。聖母があなた方を守り、いつも共にいてくださいますように。心からあなたを祝福します。」

そして2024年4月18日、教皇はネミで行われた跣足カルメル修道会の会憲改訂の会合で、次のように述べておられます。

「観想修道生活の召命とは、残り火の手入れをすることではなく、燃え続け、教会と世界に暖かさを与える火をおこし、炎を燃え上がらせることです。福音的希望をもち、裸足で、つまり神に自ら身をゆだねる自由をもって、未来をみつめてください。過去のルーツを保ち、未来を見つめてください。皆さんが主の臨在に完全に浸り、姉妹愛と相互愛の喜びで常に満たされますように。聖母があなた方と共に歩んでくださいますように。」

教会との交わりにおいて、私は主の御復活の朝の弟子たちのように祈りながら、2021年9月11日の跣足カルメル修道会総会での教皇フランシスコ謁見の際、全修道士を代表して教皇様に申し上げた言葉を繰り返したいと思います。もしお望みなら、今、そのことばを次のペトロの後継者にさし上げることができます。

教皇様、私たちは兄弟姉妹と共に、明日を待つことなく、傷つくことを恐れず、イエスの聖テレサが言われたように、「無給の騎士」として（自叙伝15：11）、イエスが十字架を背負われるのをお助けし、そして教皇が十字架を背負われるのをお助するために、私たちの従順と奉仕を担い、後戻りすることなく、命をかけて歩みます。

主のご復活、おめでとうございます！

親愛なる教皇フランシスコ、どうぞ安らかにお眠りください！

ローマ、2025年4月21日、聖週間の月曜日

跣足カルメル修道会総長 ミゲル・マルケス・コッレ神父

（訳・注：小宮山延子）

いのちの言葉 6月

あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。¹

(ルカによる福音書 9・13)

1

ガリラヤ地方のベトサイダの近郊、人里離れたところ。そこでイエスは群衆に向かって、神のみ国について語っておられました。主は、長い宣教の旅から戻った使徒たちを休ませようと、そこに来られました。「至るところで福音を告げ知らせ、病気をいやし」²て戻った使徒たちは、疲れてはいても心は満たされ、自分たちの行ったことをみなイエスに告げました。

けれども人々はそのことを知って、彼らの後を追います。イエスはこの人々を迎え、耳を傾け、語り、癒されます。次第に群衆の数は増えていきます。日は暮れて、お腹も空いてきます。心配した使徒たちはまっとうで現実的な提案をします。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里に行き、宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。」実際イエスは、すでに充分なことをしてあげたわけですし……しかし主はこう答えます。

あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。

使徒たちはびっくりします。それは無理でしょう。彼らは数千人を前に、わずか五つのパンと二匹の魚しかなく、小さな町ベトサイダで十分な食料を見つけられるわけもなく、そもそもお金もありません。

主は彼らの目を開こうとされたのでした。誰かの悩みや必要とすることにイエスは触発され、その解決のために行動されます。そのために主は、現実的に目を向けて、今あるものを用いることから始めます。確かに、使徒たちが持っているものはわずかですが、「ご自分の子らのことを思う御父の慈しみの道具となる」という使命に、主は彼らを招きます。御父は介入なさるけども、なおも彼らを「必要とされる」のです。奇跡は、私たちからの行動と信仰を「必要」とし、また信仰を成長させるのです。

あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。

それゆえイエスは、「一体どうやって」と反論する使徒たちに、たとえ小さなことであっても彼ら自身の役割を果たすよう求めました。たとえ、使徒たちにできることが小さなものでも、主はそれを軽んじませんし、代わりに問題を解決されるのでもありません。奇跡は起こりますが、彼らが持っているもの、提供できるものをすべて、主が人々のために用いることができるよう差し出す必要があるのだと、彼らの貢献を求めておられるのです。これは、一定の犠牲を払うことを意味し、主に信頼することが求められます。

主は、私たちに起こることから説き起こし、お互いに世話し合うことを教えておられます。他者の必要を前にして（「私たちの役割ではないから」、「私にはどうすることもできない」、「誰もがしているように、彼らも自分で何とかすべきだ」といった）言い訳はできません。神がお考えになった社会においては、飢えている人に食べ物を与える人、貧しい人に衣服を着せる人、困っている人を見舞う人は祝福される³のです。

あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。

このエピソードは、イザヤ書に記されている祝宴を思い起こさせます。それは神が「すべての顔から涙を拭い」⁴、あらゆる民のために催してくださる祝宴です。

大きな行事のときのように、イエスは人々を五十人ずつ組にして座させます。御子であるイエスは、御父のように振る舞い、そのことが、イエスの「神性」を強調しています。

主ご自身は、分かち合いの新しい宴である聖体において、自らを私たちのための食物とするところまで、すべてをお与えになります。

スペイン・バルセロナのフォコラーレ共同体は、コロナウィルスの大流行時に生じた多くのニーズに直面し、ソーシャルネットワークを通じて、必要なものを共有し、物資や資源を分かち合うグループを作りました。家具や食料品、医薬品や家電製品などがぐるぐると流通しているさまは、実に印象的です……。彼らの言うように、「一人ではほとんど何もできないが、力を合わせれば多くのことができる」からです。現在もこの「フェント・ファミリア」のグループは、初期のキリスト者共同体と同じように、誰一人として困窮することのないよう⁵、支援を続けています。

シルヴァーノ・マリーニといのちの言葉編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² ルカ 9・6

³ マタイ 25・35-40 参照

⁴ イザヤ 25・8

⁵ 使 4・34 参照

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

十字架の聖ヨハネ理解のための 待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

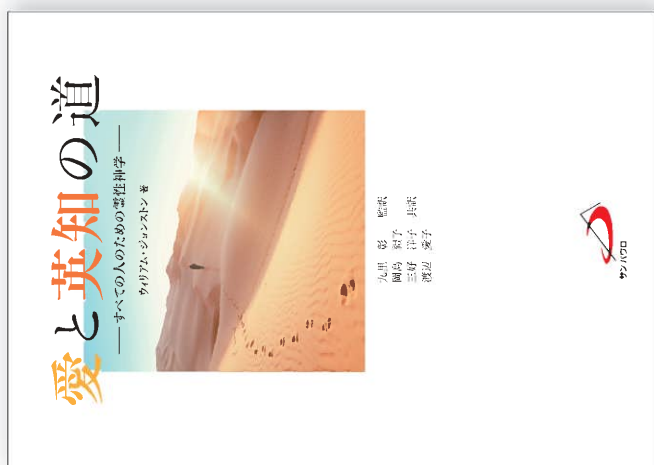
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じられた。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（る）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

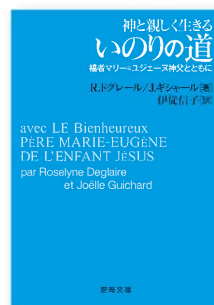
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



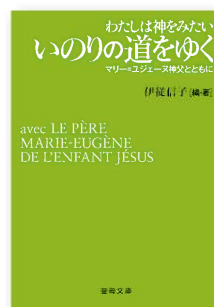
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

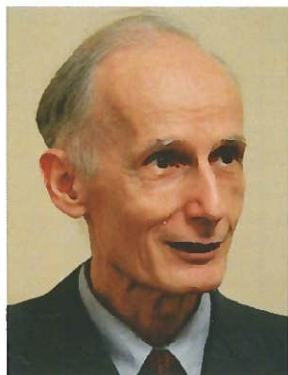
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN		
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教の精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2025 年

5月24日(土)～25日(日)

7月5日(土)～6日(日)

9月6日(土)～7日(日)

11月29日(土)～30日(日)

2026 年

1月17日(土)～18日(日)

3月7日(土)～8日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日 18時～最終日朝食) カルメル会士

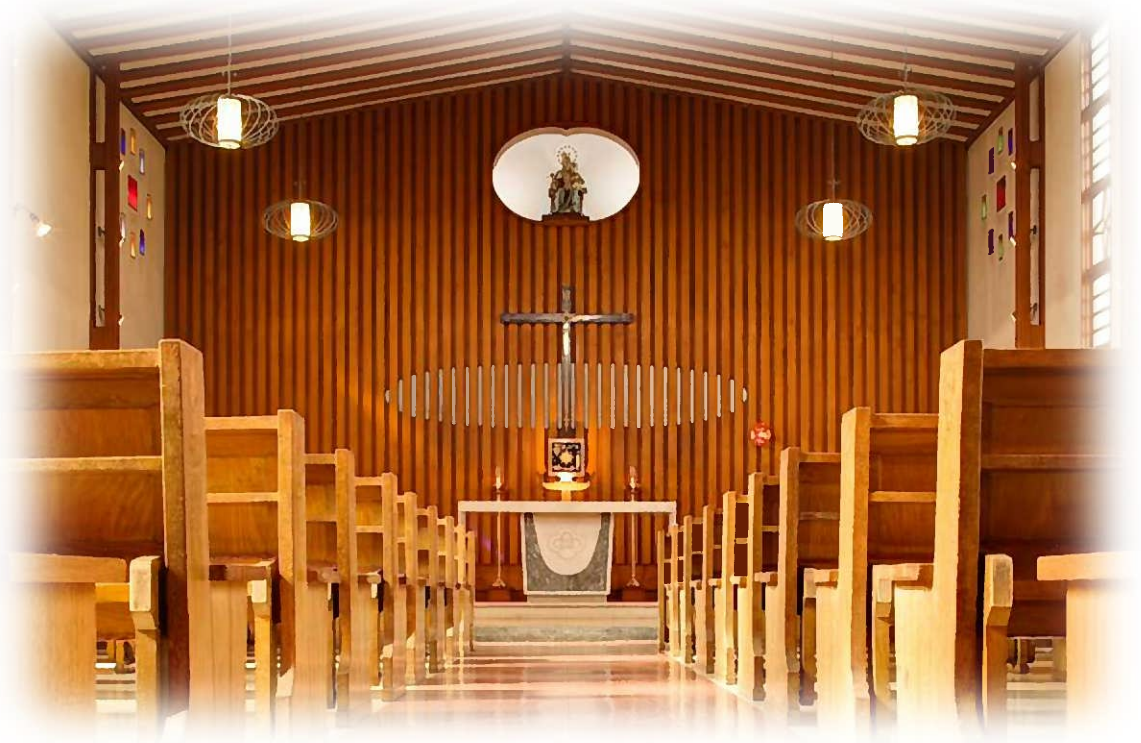
2025 年 8月16日(土)～25日(月)

2025 年 12月26日(金)～2026 年 1月4日(日)

★教会の祈り(時課の祈り)を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ（<http://www.carmel-monastery.jp>）なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ： <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

(2025 年 6 月～2026 年 3 月)

【一般のための黙想】1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時）中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

6/21—22 7/19—20 9/20—21 変更 ~~12/6—7~~→**12/20—21**
2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時）中川博道神父

7/5 9/13 11/29
2026 年 1/17 3/14

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時）中川博道神父

7/23 9/17 12/17
2026 年 1/21 3/11

【カルメルの霊性】（土日）午後5時から 中川博道神父

~~幼きテレーズ 9/27—28~~ キャンセル待ち
~~アヴィラのテレジア 10/18—19~~ キャンセル待ち
~~十字架のヨハネ 12/13—14~~ キャンセル待ち

【祈りの学校】 総合編（木）午前10時から 松田浩一神父

6/5 7/3 9/18 10/9 変更 ~~11/13~~→**11/20** 12/11

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》（火）午前10時から 松田浩一神父

6/24 7/22 ~~9/2~~中止 10/7 11/11 12/2

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般参加可

8月1日（金）夕食～10日（日）朝食 和田誠神父

12月27日（土）夕食～1月5日（月）朝食 中川博道神父

2026 年

3月18日（水）夕食～27日（金）朝食 中川博道神父

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたしますー

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで
お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが
浴衣やブラシ・歯ブラシ等はないので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2025年6月21日（14：30～16：30）

エステル記（ヘブライ語）のメッセージとギリシャ語エステル記②

その後の日程：2025年7月19日（土）、9月20日（土）、10月11日（土）

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2025年6月28日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：九里彰神父

テーマ：暗夜と希望 —十字架の聖ヨハネの霊性—

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：2025年9月27日（志村武神父）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは－新しい始まりの希望：聖年を迎える
- 2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」－教皇フランシスコの呼びかけ
- 3月13日 「希望の巡礼者」－イエス様とともに歩む
- 4月10日 「希望」と信仰－希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
- 5月 8日 「希望」と愛－希望は神の愛に基づいています
- 6月12日 「希望」と愛の業－希望は愛の業によって現れる
- 7月10日 「希望」と祈り－希望は祈りによって養われる
- 8月 休み
- 9月11日 「希望」と平和－主は与えてくださる平和における希望
- 10月 9日 「希望」と福音宣教－世界に希望を届ける、教会の使命
- 11月13日 「希望」と神の国－神の国の到来を待ち望む
- 12月11日 「希望」と喜び－神の訪れはもたらす贈り物。

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦

1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想

✦東洋の瞑想とキリスト者の祈り✦

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
名古屋入門 C	7/5(土) 9:30-17:00	Fr 植栗	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 TEL: 090-7108-7410 ngosdn@gmail.com
フォローアップ	7/13(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会九段修道院	来間(くるま)裕美子※ TEL: 090-5325-2518 *ショートメールは避けてください sadhana79878@gmail.com
宝塚 フォローアップ	7/18(金)17:30- 19(土)16:00	同上	女子御受難会修道院 (宝塚市売布山手)	西村 優子 TEL: 090-8480-2661 西村不在時は 野 真理子 TEL: 090-6758-3369
宝塚 I & アドバンス	7/20(日)9:00- 21(月・祝)16:00			
札幌 フォローアップ	8/21(木)9:30- 22(金)18:00	同上	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間 攝子 TEL080-3260-1864 本間不在時: 山崎有紀 TEL090-4720-2157
札幌 I & アドバンス	8/23(土)9:30- 24(日)18:00			
信越 I & アドバンス	8/29(金)9:00- 31(日)15:00 (前泊可)	同上	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	久喜ますみ TEL090-7842-9404 masumi.kyuki@gmail.com
広島 フォローアップ	9/12(金)9:00- 13(土)16:00	同上	広島市内施設	来間(くるま)裕美子※
広島 I & アドバンス	9/14(日)9:00- 15(月・祝)16:00			

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- 入門 C への参加=入門 A または入門 B を終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナ I を終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 7 月 10 日(水) 13:30～15:30

講話の箇所: W・ジョンストン著『愛と英知の道』134 頁～148 頁

2025 年度スケジュール

1 月 16 日、3 月 13 日、5 月 15 日、7 月 10 日、9 月 18 日、11 月 20 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

